



合併特例債活用予定事業について



宮本 勉 議員

△質問▽
合併協議会で決められた八つの合併特例債活用予定事業は、どのような計画で進められるのか。また、百六十五億円という計画ができており、既に土浦駅前北地区市街地再開発事業については七十億を超える事業費のうち、二十億円の特例債を使う予定の計画である。特例債予定額は、予定限度額に合わせて全額活用するのか、伺う。

△市長公室長▽

平成十八年度は、道路新設改良事業の中で、土浦市と新治地区を有機的に結ぶ路線を検証し、合併特例債の発行について現在県と協議を行っている。その他の予定事業については、新市建設計画を踏まえながら、今年度から策定作業に入る第七次土浦市総合計画の中で改めて位置付けをして、事業の推進を図って

いきたい。また、本市において合併特例債は、十カ年で百六十七億円の発行が可能のところ、計画で百六十五億円を予定しており、起債制限比率等を念頭に、事業の優先性を見極めつつ、慎重にこの特例債を活用してまいりたい。

(掲載以外の質問事項)

- 一 行財政改革について
- 三 土浦市の街づくりについて
- 四 土浦市農業公社について

都市計画道路(市街地)の拡幅及び整備手法は



寺内 充 議員

△質問▽

川口交差点及び市民会館入口交差点の交通量、都市計画道路の許容交通量、及び混雑率ほどの位か。また、交通体系調査特別委員会から、亀城公園からモール505までの道路幅員を二十五メートルに整備し、更に、モール505から駅前・東崎線の川口下のガードを通り、荒川沖・木田余線につなぐ道路を二十五メートルの幅員に、併せて荒

川沖・木田余線の拡張整備を願いたい旨の最終報告をされているが、予算に反映されていないので伺う。

△都市整備部長▽

川口交差点で真鍋方面に向かう交通量は、十二時間当たり約一万二千九百台、真鍋交差点から川口交差点に向かう交通量は約一万六千五百台で、設計交通量は一日当たり一万台、混雑度は一・〇から一・五と見られる。

なお、総合的な交通体系の方針等の検討を行う総合交通体系調査を二カ年で進めている。その他の道路についても特別委員会から提案を議会で報告されたので、それらを踏まえて、具体的な計画作りを十八年度の議論の中で検討してまいりたい。

(掲載以外の質問事項)

- 二 安心・安全の象徴である消防署建替計画の進捗状況について

常名運動公園の都市計画を変更すべきではないか



古沢 喜幸 議員

△質問▽

常名総合運動公園は、バブル崩壊の時点で計画をストップしていたら、八十億円を超える税金は無駄に使わずに済んだはずである。合併しても十四万四千人余りで立派な運動公園が二つもありながら、もう一カ所必要かどうか議論の余地は無い。土地買収は十年以上前から暗礁に乗り上げていた。都市計画を潔く変更し、新たな土浦市の発展のために、活用先を市民の皆さん方の知恵を入れながら考えるべきと思うがいかがか。

△都市整備部長▽

当該事業において都市公園事業の認可を得て、用地の九十三・二七パーセントを取得している現在、公園以外の用途に都市計画決定の変更をすることは、高いハードルがあるが、当該運動公園の整備に当たっては、川口運動公園及

び新治運動公園を含めた三つの運動公園にそれぞれ機能を分散することによって生じる運動機能以外のスペースを活用した、一般の来園者が自由に利用できる施設整備を図るなど、各界各層の皆様の御意見を十分に反映させた全体計画の見直しが必要であると考

(掲載以外の質問事項)

- 二 旧新治村の五年間(日十三丁H十七)の水道工事について
- 三 新任の水道部長の抱負を問う
- 四 下水道使用料金
- 五 ふれあいセンター「なごみね」について



常名運動公園建設用地